

第十二回徳島県民文化祭主催事業 分野別フェスティバル

第四十一回

邦楽大会

と き

平成二十一年十月十一日(日)
十二時三十分開演(十二時開場)

と ころ

あわぎんホール

(徳島県郷土文化会館)

主催 徳島県邦楽協会

徳島県民文化祭開催委員会

ごあいさつ

徳島県邦楽協会会長

杵屋 佐 篠

第四十一回邦楽大会にご来場いただき、ありがとうございます。皆さまには日ごろいろいろとご支援を賜っており、感謝しております。ご来賓の方々をはじめ関係者の諸先生にも敬意を表し、御礼を申し上げます。

今回は幕をあげ彩る新たな趣向を試みることにしました。謡曲、長唄、鳴物、三曲、吟詠、琵琶、端唄(俗曲)、民謡、浄瑠璃の九部門各流の代表が県邦楽協会オリジナル曲「新撰恵比寿宝船」(作詞阿波野すだち、作曲七世杵屋佐吉)を合同上演、協会の一体感を響きわたらせる象徴とする一幕です。

内容は鳴門の渦潮の幸を誇り郷土の自然の素晴らしさを喜ぶ賛歌。開演を祝う協会の新たな姿を披露、アピールできればと念じております。これまで各部門が次々と別々に演じてきた舞台を、一つにまとめて一段と格調高く豊かに構成しよう、工夫をこらして登場させました。協会のテーマソングとして定着できれば、と願っております。

昭和四十二年に協会が発足してから四十年余り。日本の伝統文化を守り継承するため歩み続けて参りました。年々歳々その時の風を吸い込みながら新たな時代の色合いを加えて発展に努めております。

秋たけなわの一日を、楽しく邦楽の美しさを味わっていただければ、私ども協会員一同、まことに幸せでございます。

平成二十二年十月十一日(日)

あわぎんホール





祝 辞

徳島県知事

飯 泉 嘉 門

このたび、第四十一回徳島県邦楽大会が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。また、本大会の開催に向けて、多大なご尽力をいただきました徳島県邦楽協会の皆様に、深く敬意を表する次第でございます。

また、今大会は、本年第十二回となる徳島県民文化祭分野別フェスティバルの一つとして、開催いただいているものでもあり、県民の文化の祭典を大いに盛り上げていただいておりますことにも、重ねて御礼申し上げます。

長い歴史と風土によって育まれた日本の伝統音楽を継承・発展させることは、私たちの生活に潤いや誇りをもたらし、地域文化の創造に大きく資するものであります。本大会で、各流派の方々が集い、日ごろの研鑽の成果をご披露いただきますことは、本県の邦楽の発展、ひいては芸術文化活動の活性化に繋がる、大変意義深いことでございます。

県といたしましても、平成十九年秋に開催いたしました、国民文化祭の成果を継承・発展させていくため、「文化立県とくしま」の実現に向けて、様々な施策を展開しているところでございます。本年は、十月三日から十一月三日の一カ月間を「阿波人形浄瑠璃月間」と位置づけ、「ジョールリ一〇〇公演」を開催し、さらなる「あわ文化」の発信に努めているところであります。

邦楽協会の皆様におかれましては、本大会における見事な演奏や名演技の数々を通して、観客の皆様には伝統芸能の魅力をお伝えいただきますとともに、本県の文化振興に対する一層のお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、徳島県邦楽協会の更なるご発展と、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

平成二十一年十月十一日

徳島県邦楽協会オリジナル曲

阿波野すだち 作詞

七世 杵屋佐吉 作曲

新饅恵比寿寶船



新饌惠比寿寶船

ほのぼのと 鳴門の浦の 朝靄あさもやを

分け進みゆく ひとえ船ふね

楫を取りたるお姿は

金きん欄らん 烏帽子えぼしに 釣り竿持った

惠比寿三郎 左衛門さゑもんの丞じやう

福の神様 おいべっさん

時も初春はつはる 日の出の頃に

今年最初の お供えもんを

鳴門の海で 釣ってみよ

たあんと釣れたら 今年ことしや豊年

めでたいしるしに なるらんと

えつちら おつちら 漕ぎだして

五色の糸に 銀の針

ええい やあつと 投げたれば

ぐい ぐい ぐういと 大当たり

まずは掛かってござったは

音に鳴門の渦潮に

もまれもまれて きりきりと

身の引き締まった 鳴門鯛なるとう

天下無双の お御馳走ごちそう

も一つこいと おいべっさん

竿を巡らし 右左

ぐるり 探って 見たならば

針はずしりと 食い込んで

動かぬところを 腰ためて

よつこらしよつと 引いたらば

によるによる あがつて参ったは

鳴門わかめの 深緑ふかみどり

歯はごたえ 絶品 すぐれもの

鯛の刺身や みそ汁に

願ってもない 付け合わせ

さすがに疲れたおいべっさん

次の獲物つぎは さつぱりと

気分のええ物 くだされと

ごうごう轟とどろく大渦の

真ん中めがけて つり糸を

すらりと 放つて 見たならば

たちまち 針に 飛びついて

ぼんぼん あがつて 参ったは

緑色した 玉のような

これは何じやと 頬ほ寄せみれば

処女おとめのような 良い香り

阿波の すだちにござります

魚料理や 鍋物や

冷やしそうめん ざるそばに

一振りかけりや あら不思議

味わい ぐっと 引き立てて

人の心を なぐさめる
やさしい すだちの香りです

元氣になつて おいべっさん
もいちど 渦の真ん中へ
針を ぴらりと 投げ込めば
ぐいぐいばたばた ばたばたと
せわしく 糸を 引きずつて
波の中から 飛び出して
ぴちぴち跳ねる ニワトリは
その名も高き 阿波尾鶏
日本一の地鶏ぞと
売り出し中の 人気者
コケコッコーと ときの声
呼ばれて登る 初日の出

やれめでたやな めでたやな
そろそろ仕舞に しょうかいと
思うたら 竿に 大当たり
こいつは 一番 大物と
のびる 五色の 釣り糸を
ゆるり たぐつて みたならば
現れいでたる 賜物は
水もしたたる 阿波娘
独り暮らしの おいべっさん
こりや一番の お寶じや
品の良いのを 嫁取ろうと

喜びころげて 抱きよせりや

ついて出てくる 嫁入りの
長持つづらの すき間から
ほくほく甘い 香りして
何じやと 開いて みたならば
九里より甘い 十三里
鳴門金時 さつまいも
上方 お江戸の 娘らの
心とろかす にくいやつ
二人仲良く ほおばれば
美容と健康 末永く
ともに白髪の 湯気が立つ

阿波のお国の 海山の
寶を たあんと 積み込んで
帰る船路に 勇む糧
おいべっさんの えびすがお
今年や 豊年満作で
天下太平 商売繁盛
まずは お越しの皆様の
家内安全 疑いなし

やれめでたやな めでたやな
皆様、誠に おめでとうござりまする。
(幕)

〔出演部門〕

謡曲
長唄
鳴物
三曲
吟詠
琵琶
端唄(俗曲)
民謡
浄瑠璃

1 謡

曲

喜多流喜陽会

仕舞

観世・世阿弥作

烏頭

司会 NHK 黒杉 愛

(獵師の霊)

シテ 小野 蓉子

地頭 吉田 文明

地謡 中野 広二

木下 徹

狩野 直喜

萩野 拓郎

石田 秀憲

西條 泰彦

2 三

曲

正絃社・竹保流尺八徳島県支部

野村 正峰 作曲

万葉集山上憶良の歌より

秋の七種

箏 室志津代

村雲 由紀子

松本 篤子

亀谷 美恵子

近藤 悦子

長安 眞智子

藤本 芳子

橋本 千栄子

桑原 登志子

伊勢 民子

尺八

前坂 由美子

田淵 一郎

小川 智代子

浜井 弘保

西野 箏保

清水 露保

板谷 崇保

兼松 劉保

畑松 保保

中田 笏保

赤星朝彦
白田克己
乾田友浩
岩野泰三
岡田英規
吉岡里美
近藤寛康



3 琵琶

尾田 旭鳴

作曲 旭城会

戦犯の詩

工藤 旭城

4 吟

詠

岳志流吟詠会

本宮 三香 作

小楠公の母を詠ず

(吟)

赤岡山
澤本西
旺陽昂
心心心



揚心流日本朗詠会

齊藤 監物 作

吟テープ。

吟 舞
塩 高
田 橋
瑞 宏
月 堂

日本当道音楽会所属 猪井社中
竹保流尺八徳島県支部
作曲

第二等

安田美紀 長坂奈月 月岡美紀 増田夫規子 武市喜久子 今枝美代子 加藤三貴 高田奈緒 高田南夏海 佐々木理人 市川富美子 本浄世子 福田シゲル 猪井恵朱

十七絃
三絃
尺八

岡 岩 乾 白 赤 中 畑 兼 板 清 西 浜 白 吉
田 野 田 星 田 松 谷 水 野 井 田 崎
英 泰 友 克 朝 笏 笙 劉 崇 露 笙 弘 智 夕
規 三 浩 己 彦 保 保 保 保 保 保 保 子 華

打楽器

高久池立井船近吉
橋米田花下井藤岡
侶見真正尚健寬里
山奈二一郎規重三康美

7 民

謡

阿波ぞめき

渦の会

福島 俊治 編曲

渦の舞

西 武 谷 稲 岩 角 鈴 斎 桑 藤 島 竹 佐 端 高 高 橋 青 福
 浦 岡 口 実 尾 山 木 村 村 本 田 内 藤 村 浜 浜 本 山 島
 美 起 広 喜 妙 美 定 博 文 千 須 溶 春 欣 雅 洋 奈 喜 俊
 恵 三 子 代 子 智 子 子 江 子 美 子 子 示 代 介 央 子 治
 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

松 居 亀 山 山 岡 西 豊 古 松 田 花 住 澤 勝 山 志 野 日
 本 上 井 崎 崎 島 岡 川 川 尾 中 井 瀬 田 瀬 北 磨 口 崎
 三 サ き 幸 富 京 泰 く 記 智 香 善 清 敬 明 美 シ 重
 津 カ み 子 江 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 枝 エ 江 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

おどり

堀 福 福 伊 伊 橘 丸 上 登 堀 野 川 川 太 住 鈴 中 平
 田 島 島 丹 丹 岡 藤 金 田 村 下 田 友 江 野 尾
 樹 千 洋 菜 莉 文 千 孝 康 か 純 安 美 節 理 良 信 京
 里 恵 子 月 子 代 秋 太 江 お 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
 美 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

8
三

曲

宮城道雄
編曲

八千代獅子

都山流尺八楽会徳島支部・宮城会四国支部内田社中
日本当道音楽会所属箏曲古都和会・萌の会

9
三

曲

菊重精峰
作曲

せせらぎの賦

当道音楽会徳島中支部
都山流尺八楽会徳島県支部

尺八

濱野羊山 浜田雅山 村上聖山 杉口珧山 七條峰山 伊丹千山 貝出光山 地紙湫山 藤本昶山 吉岡萃山 田渕渦山 大久保宴山 市原紳山 高橋侶山 藤井介山 計盛卓山

箏低音

箏高音

市原明星 岡川明功 岩佐明想 西園芳風 津田幸風 澤村美紀 井戸愛美 岡川茜 宮武陸子 高井祥子 宮岡量子 真島貴巳子 賀川玲子 齊藤年子 仁木古都風

十七絃

胡弓
篠笛

山本欣志子 菊香堯子 前田満子 今倉千恵子 佐藤千代子 和田陽子 大溝清子 森上順子 橋口直美子 吉崎夕華子 原田陽子 山上朋子 内田道子 吉野美保子 佐々木健人 鼓久米美奈子

三絃

一箏

菊華茂美 島本菊保 菊村弘子 木内美香

二箏

十七絃

尺八

菊弘敏子 島本有理 貝出光山 高橋侶山

10

三 曲

菊塚 検校 作曲
当道音楽会 菊美会
竹保流尺八 劉保会

明治松竹梅

尺八 箏
菊村 美枝子
兼松 劉保
西野 筚保
板谷 崇保

11

三 曲

松浦 検校 作曲
琴古流尺八美風会師範の会
萌の会

四季の眺

尺八

大西 晴二
桜井 晴一
宮武 晴園
竹内 倫風
松尾 江風
吉田 晴耕
阿部 晴匠
川真田 螢風
蓮池 澄風

箏

近藤 晴芳
住友 随晴
阿部 藤風
重本 晴尚
清原 晴隆
中山 康夫
近藤 牙子
齊藤 年子
岡川 茜

三絃

福田 佳都子
橋口 直美
井内 久美子
川真田 英子
山上 朋代
八田 雅子
山野 真弓
松本 フジ子
武田 薫

12 長 唄

幸和会

長唄三味線

合方集

松 永和寿三郎
松 永和世繁
松 永和世幸
松 永和幸節
松 永和幸恵
松 永和繁千代

13 琵琶

薩摩琵琶錦心流一水会阿波支部

葛生 桂雨 作曲

静

郡 草 水



14 吟 詠

大江 敬香 作

和光流東山吟詠会

合吟 近江八景

武田 石 譽 岡 有 泉
林 中 原 田 崎 地
広 輝 久 明 雄 翠 耕
山 山 山 山 光 光 光

15 長 唄

三代目 杵屋正治郎 作曲

杵家会徳島支部 鼓月会

元禄花見踊

(舞台面)

三味線

杵 杵 杵 杵 杵 杵 杵 杵
家 家 家 家 家 家 家 家
弥 弥 弥 弥 弥 弥 弥 弥
夕 夕 夕 智 智 夕 夕 文
清 鼓 佳 駒 薦 福 竹 文

低音

杵 杵
家 家
弥 弥
夕 弘
月 治

杵 杵 杵 杵 杵 杵 杵 杵
家 家 家 家 家 家 家 家
弥 弥 弥 家 弥 弥 弥 弥
弘 津 津 津 千 千 千 千
葵 慶 華 穗 代 代 代 代
穗 穂 穂 穂 穂 穂 穂 穂

高音

杵 杵
家 家
弥 弥
登 智
弘 弘

唄

杵 杵 杵 杵 杵 杵 杵 杵
家 家 家 家 家 家 家 家
弥 弥 弥 弥 弥 弥 弥 弥
智 夕 菜 智 代 津 穂 穂
智 次 弘 代 弘 音 実 佳

太 大 鼓 鼓 鼓 鼓 笛
鼓 皮 鼓 鼓 鼓 鼓 川
林 籐 南 雲 山 洲 川
舍 財 下 崎 口
郁 艘 知 幸 和 春 朋
恵 秀 枝 恵 代 子 子

童夢

作曲

箏曲あきら会・徳島箏曲スタジオ・箏曲雅伎会
都山流尺八楽会 徳島県支部

										三絃 A	17絃 A									
B																				
藤	成	中	長	西	白	和	佐	黒	石	中	福	石	津	藤	村	荒	安	美		
川	川	村	江	野	川	田	野	木	原	村	永	井	村	本	松	井	井	馬		
大	雅	眞	万	ま	純	正	孝	登	栄	い	雅	恭	雅	都	雅	真	美	欣		
記	富	紀	里	ゆ	子	美	志	代	子	く	豊	子	登	夕	奈	奈	千	子		
	美	子	子	み				美		代			代	紀		美	江			

打楽器

高市 中前 藤貝 西英 杉村 浜山 濱高 松多 板
橋原 村田 本出 尾口 上田 本野 橋崎 積東
侶明 信晋 昶光 泰宗 珖聖 雅眉 羊榮 希代 史由
山星 山山 山山 山山 山山 山山 山子 香江 唯

徳島県邦楽協会役員

役職名

氏名

所属団体名

名誉会長

松 永 和三治 春 松 会

顧問

大 櫛 亜 童 琴古流尺八竹友社

参与

杵 家 弥代弘 杵家会徳島支部

濱 野 羊 山 都山流尺八楽会
徳島県支部

内 田 華 水 錦心流琵琶欽水会

会 長 杵 屋 佐 篠 徳島佐苗会

副会長 椎 野 瑞 城 大和陽心流瑞城会

松 永 和世幸 古 都 和 会

浜 井 弘 保 竹保流尺八
徳島県支部

浅 香 寿 穂 学 識 経 験 者

部会長 八 木 瑞 堂 揚心流日本朗詠会

猪 井 恵 朱 日本当道音楽会
所属 朱 音 会

稀 音 家 治 乃 稀 綾 會

工 藤 旭 城 筑前琵琶旭城会

大 西 晴 二 琴古流尺八美風会
徳 島 支 部

荒 瀬 龍 鳳 青雲流日本吟詠会

内 田 道 子 宮城会内田社中

役職名

氏名

所属団体名

常任理事

室 志津代 正 絃 社

西 條 典 綜 乃木流吟剣詩舞道
徳島県本部

藤 本 雅登伎 徳島箏曲スタジオ

菊 村 弘 子 当道音楽会
徳島中支部

稀 音 家 四郎五郎 稀 聲 会

井 内 久美子 美 乃 里 会

山 下 明 穂 関西吟詩文化協会
明 穂 会

山 上 明 山 都山流尺八楽会
徳島県支部

浜 井 弘 保 竹保流尺八
徳島県支部

杵 屋 佐伴苗 玄 の 会

事 務 局 次 長 杵 屋 清 水 露 保 竹保流尺八
徳島風会

事 務 局 杵 屋 佐世篠 郁 の 会

長 田 岳 心 岳心流吟詠会

萩 野 拓 郎 喜多流喜陽会

島 本 菊 保 当道音楽会
徳島中支部

監 事 東 音 三木千佳子 佳 趣 会

杵 屋 佐田篠 篠 懸 会



徳島県邦楽協会